

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成16年度病虫害発生予報第5号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病虫害発生予報第5号（8月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
普通期水稻	いもち病(葉いもち・穂いもち) 紋枯病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	並 並 並 やや少ない 並 やや多い	やや少ない 並 やや少ない やや少ない 並 やや多い
大豆	ハスモンヨトウ	やや多い	やや多い

斑点米カメムシ類は前年対比。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 いもち病(葉いもち・穂いもち)

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、葉いもちの発病株率は12.0%（平成：8.9%、前年：8.4%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は高く、降水量及び日照時間は平成並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が多いほ場では、早急に防除を行う。

イ 穂いもちの薬剤防除を実施する場合は、粉剤は出穂期直前、粒剤は出穂前処理となっており、剤型によって散布時期が異なるので注意する。

ウ 薬剤については「平成16年度普通作物病虫害防除の手引き」を参照する（以下の病虫害についても同じ）。

2 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病株率は1.3%（平年：1.2%、前年：0.5%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

出穂以降は病斑が上位葉へと進展するため、常発ほ場では出穂10～14日前に防除を行う。

3 セジロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月4半旬までの飛来量は平年より少なかった。

イ 7月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は10.9頭（平年：17.4頭、前年：35.2頭）であった。

4 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月4半旬までの飛来量は平年より少なかった。

イ 7月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は0.04頭（平年：0.17頭、前年：0.06頭）、発生ほ場率は3.6%（平年：12.5%、前年：8.8%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 要防除水準（8月上旬のほ場での発生量が100株当たり20頭、8月下旬では100株当たり100頭）を超える場合は、早急に防除を行う。

イ 防除を実施する場合は、「平成16年度飛来に基づくトビイロウンカ発生予想パターン図」（病害虫発生予察速報第4号別紙）を参照し、防除時期を決定する。

5 コブノメイガ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、食害株率は4.9%（平年：6.8%、前年：19.7%）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除を実施する場合は、「平成16年度飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図」（病害虫発生予察速報第4号別紙）を参照し、防除時期を決定する。

6 斑点米カメムシ類

(1) 予想の内容

発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、斑点米カメムシ類主要3種（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類）は畦畔で1.2頭（前年：0.3頭）、雑草地で14.4頭（前年：4.5頭）であった。

カスミカメ類は畦畔で8.2頭（前年：11.5頭）、雑草地で36.0頭（前年：28.9頭）であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 畦畔や休耕田の雑草は、カメムシ類の発生源となるので、出穂前に早めに除草を行う。

イ 防除適期は、穂揃期及びその7～10日後である。

ウ 防除を行う場合は、水田周辺の畦畔など、カメムシ類の発生源も含めた防除を行うとより効果が高い。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 7月のフェロモントラップによる誘殺虫数は566頭（平年：407頭、前年：771頭）であった。

イ 7月6半旬の巡回調査結果、10a当たりの白変葉数は261.3枚、白変葉の発生ほ場率は89.7%であった。

イ 気象予報では8月の平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

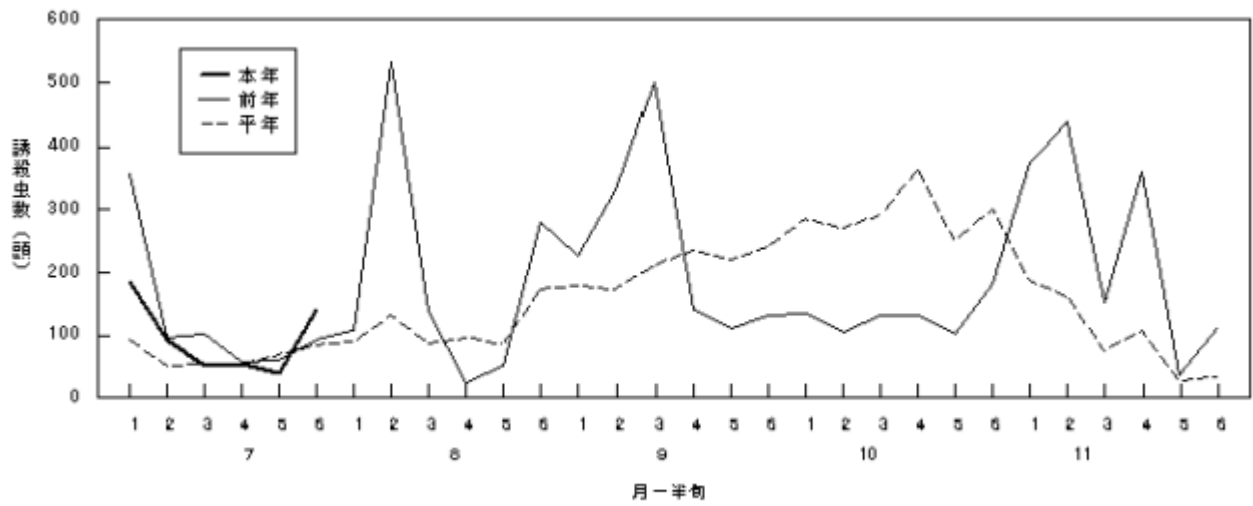
(3) 防除上注意すべき事項

ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。

イ 薬剤防除は効果が高い若齢幼虫期に実施する。

ウ フェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃が防除適期となるが、ほ場での白変葉の発生を確認し防除を行う。

エ フェロモントラップによる誘殺状況は、病害虫防除所のホームページを参照する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）
※異田式乾式トラップ

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	並 やや多い	並 やや多い
ナシ	ナシヒメシンクイ ハダニ類	やや多い 並	やや多い 並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	並 少ない 並 やや多い	並 少ない 並 やや多い
ナシ、カキ カンキツ類等	カメムシ類	多い	多い

【果 樹】

1 カンキツ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病果率は2.0%（平年：1.5%、前年：1.8%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。（以下の病虫害についても同じ）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる枯れ枝を極力除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に降雨の合間をぬって防除を行う。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、寄生葉率は18.2%（平年：10.8%、前年：5.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤が、葉裏にも十分かかるように丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

3 ナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月1半旬～7月5半旬までのフェロモントラップ(県内3か所平均)

による誘殺虫数は、90頭（平年：78頭、前年：89頭）であった。
イ 7月5半旬調査の結果、被害果率は0.6%（平年：0.2%、前年：0.6%）であった。

ウ 気象予報では、8月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。（以下の病害虫についても同じ）

（3）防除上注意すべき事項

ア 発蛾最盛期7日後を目安に防除を行う。なお、防除後も成虫が減少しない場合は、更に7～10日間隔で追加防除を行う。

イ 幼虫は主に果頂部から果実に食入加害するので、防除に当たっては、果実に薬液が十分かかるように散布する。

4 ナシのハダニ類

（1）予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

（2）予報の根拠

7月5半旬調査の結果、寄生葉率は8.0%（平年：11.7%、前年：1.0%）であった。

（3）防除上注意すべき事項

ア 防除は、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

5 カキ炭疽病

（1）予報の内容

発生量：平年・前年並

（2）予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病枝率は1.0%（平年：2.9%、前年：1.1%）、発病果率は0.6%（平年：1.0%、前年：0.6%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。（以下の病害虫についても同じ）

（3）防除上注意すべき事項

ア 樹冠内部の徒長枝に感染し発病しやすいので、防除に当たっては薬液が樹冠内部にも十分かかるように丁寧に散布する。

イ 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので極力除去する。

6 カキうどんこ病

（1）予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

（2）予報の根拠

7月5半旬調査の結果、発病葉率は2.2%（平年：9.4%、前年：12.1%）であった。

（3）防除上注意すべき事項

葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

7 カキのフジコナカイガラムシ

（1）予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、寄生果率は6.1%（平年：6.7%、前年：10.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多いほ場では、第2世代幼虫の発生時期である8月中旬の防除を徹底する。

イ 本虫は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面など薬剤がかかり難いか所に多く寄生しているため、十分な薬量を使って散布むらのないよう防除する。

8 カキのハマキムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、被害果率は1.9%（平年：0.8%、前年：0.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

本虫は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面など薬剤がかかり難いか所に多く寄生しているため、十分な薬量を使って散布むらのないよう防除する。

9 ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 7月1半旬～7月5半旬までの予察灯（県内6か所平均）での誘殺虫数は次のとおりである。

チャバネアオカメムシ 26,806頭（平年：1,968頭、前年：22頭）

ツヤアオカメムシ 1,246頭（平年：300頭、前年：16頭）

イ 同集合フェロモントラップ（筑紫野市）での総誘殺虫数は次のとおりである。

チャバネアオカメムシ 70,036頭

（前7か年平均：16,020頭、前年：5頭）

ツヤアオカメムシ 283頭

（前7か年平均：147頭、前年：0頭）

ウ 7月5半旬調査の結果、カキの被害果率は2.0%（平年：0.7%、前年：0.1%）、ナシの被害果率は6.4%（平年：1.2%、前年：0.2%）であった。

エ 気象予報では、8月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果樹園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。

イ 防除薬剤は樹種によって使用できる薬剤が異なるため注意し、農薬使用基準を遵守する。

ウ 降雨があると薬剤の残効が短くなるため、散布間隔に注意する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病	並	並
	もち病	やや少ない	やや少ない
	輪斑病	やや少ない	やや少ない
	チャノコカクモンハマキ	やや少ない	やや少ない
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多い	やや多い
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	やや多い

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、発病葉数は2.2葉(平年：3.9葉、前年：0.6葉)であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。(以下の病虫害についても同じ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から3葉期までに薬剤防除を実施する。特に最終摘採後の芽は、来年の一番茶の母枝葉になるので、防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

2 輪斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、発病葉数は0.04葉(平年：0.3葉、前年：0.05葉)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉や茎の傷口から病原菌が感染するため、三番茶摘採、刈り落としの当日又は翌日に薬剤防除を実施する。

イ 輪斑病の発生園では、新梢枯死症も発生しやすいので注意する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

3 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、巻葉数は0.04葉(平年：0.2葉、前年：0.2葉)であった。

イ 7月1半旬～7月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次の

とおりである。

筑後市 61頭（平年：263頭、前年：183頭）

八女市 41頭（前4か年平均：108頭、前年：66頭）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は平年並の7月6半旬～8月1半旬と予想される。

イ 発生の予想される園では、成虫の発生に注意し、発蛾最盛期7日後の8月1～2半旬を目安に防除を行う。

ウ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

4 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬の調査の結果、寄生葉率は0.6%（平年：0.8%、前年：0.1%）で、50葉当たり寄生虫数は2.2頭（平年：1.4頭、前年：0.04頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、1.1頭（平年：0.7頭、前年：0.6頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。

6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、5.9頭（平年：4.4頭、前年：3.6頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
イチゴ (育苗床)	炭疽病 ハダニ類	並 多い	並 多い
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	やや少ない 並 やや多い やや少ない 並	やや少ない 並 やや多い 並 並
ネギ	ネギハモグリバエ シロイチモジヨトウ	やや多い 多い	やや多い 多い
野菜共通	オオタバコガ	並	並

1 イチゴの炭疽病

(*Colletotrichum acutatum* 菌による葉枯れ炭疽及び *Glomerella cingulata* 菌による炭疽病)

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

7月5半旬調査の結果、子株での発病株率は0.9% (平年：0.7%、前年：3.5%) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病株があると降雨やかん水により急速に蔓延するので、発病した株は速やかに処分する。

イ 発病後の薬剤散布は効果が低いため、予防散布に努める。特に、降雨後は感染しやすいので、重点的に散布する。

ウ 薬剤散布は株元まで十分かかるように行い、葉かき直後に実施する。

エ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

オ 輪斑病や疫病など類似の病徴を示すものがあるので、判断がつかない場合は地域農業改良普及センタ - や病虫害防除所に診断を依頼する。

2 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、子株での寄生株率は16.4% (平年：3.0%、前年：0%) であった。

イ 気象予報では、8月の降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ハダニは摘葉するとその葉から急速に移動するので、摘葉した葉はほ

場内に放置せず、ビニル袋等に入れ密封して処分する。

ウ 薬剤抵抗性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

3 アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、寄生株率は12.0%（平年：6.6%、前年：4.4%）であった。

イ 気象予報では、8月の降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

4 ネギのネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 7月5半旬調査の結果、寄生葉率は13.6%（平年：7.2%、前年：25.5%）であった。

イ 気象予報では、8月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。（以下の病害虫についても同じ）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼苗期の防除を徹底する。

イ 成虫の飛び込み防止のため施設に防虫ネットを被覆する場合は、1mm目以下とし、隙間がないように張る。

ウ 収穫終了後は、ハウス内の土壌表面を1週間程度ビニルで覆い、土壌中の蛹を死滅させる。

エ 薬剤抵抗性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。

5 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年より多い

(2) 予報の根拠

7月2半旬～7月5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は、267頭（平年：127.6頭、前年：144頭）であった。

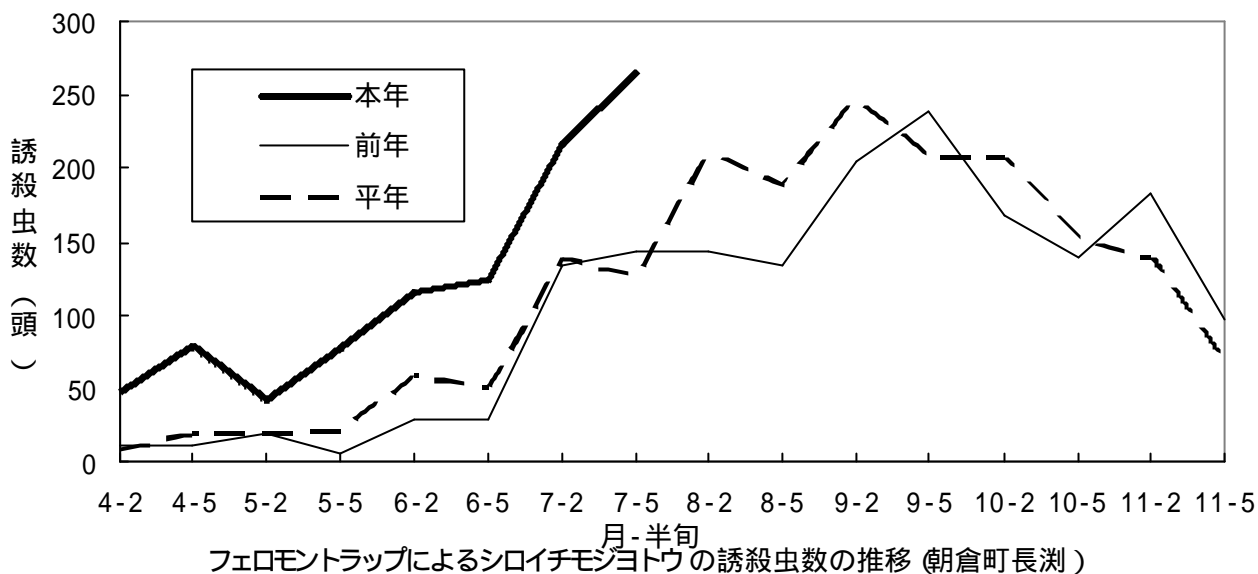
(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 成虫の飛び込み防止のため施設に防虫ネットを被覆する場合は、4mm目以下とし、隙間がないように張る。

エ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。



8月の気象予報（1か月）

（予報期間7月31日～8月30日）

2004年 7月30日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 7月31日～8月6日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 8月7日～8月13日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 8月14日～8月27日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
27.6	187.7	200.1	28.1	27.9	27.4

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jppn.ne.jp